

法を成ぜずと云ければ、隱士が云、我が失也。兼て誠めざりける事をと悔ゆ。然れども烈士師の恩を報ぜざりける事を歎て、遂に思ひ死にししぬとかかれて候。仙の法と申は漢土には儒家より出て、月氏には外道の法の一分也。云にかひ無き佛教の小乘阿含經にも不及、況や通別圓をや。況や法華經に及べしや。かゝる淺事だにも成ぜんとすれば四魔競て成じがたし。何況法華經の極理南無妙法蓮華經の七字を、始めて持たん日本國の弘通の始ならん人の、弟子檀那とならん人人の大難の來らん事をば、言をもて盡し難し、心をもてをしはかるべしや。されば天台大師の摩訶止觀と申文は天台一期の大事、一代聖教の肝心ぞかし。佛法漢土に渡て五百餘年、南北の十師智は日月に齊く、徳は四海に響きしかども、いまだ一代聖教の淺深勝劣前後次第には迷惑してこそ候しが、智者大師再び佛教をあきらめさせ給のみならず、妙法蓮華經の五字の藏の中より一念三千の如意寶珠を取出して、三國の一切衆生に普く與へ給へり。此法門は漢土に始るのみならず、月氏の論師までも明し給はぬ事也。然れば章安大師釋云、止觀明靜前代未聞云云。又云、天竺天論尙非其類等云云。其上摩訶止觀の第五卷の一念三千は、今一重立入たる法門ぞかし。此法門を申には必魔出來すべし。